

亀山市域登山道の概況 (2019. 4.24)

	登山道 (登山コース) 名称 番号	コース概況	危険地点、問題点
1	野登山表参道 ①	幅の広い安定した道。途中で車道にでて、再び登山道に入る。頂上部は杉の老木に囲まれた野登寺と東の三角点のある頂上に分かれる。	特になし。
2	仮称 (ミツマタ尾根、独標尾根) ②	ミツマタ群生地までは車道と登山道でよく踏まれている。ミツマタ群生地は谷 (ハカン谷) の上部。778m ピークから南に延びる尾根に上がる地点で直角に曲がるが、林業の表示以外、道標がないので、下りの登山者は直進する恐れ (道迷い)。上の尾根ルートは、踏み跡であるが明瞭。仙鷄尾根に出るところで右に巻き鞍部にでるが、植林の道も混じり、表示が必要である。	岩場、崩落地はない。
3	仙鷄尾根 ③	野登山から仙ヶ岳の尾根。やせ尾根、露岩、ガレ場、急な登り (下り) が連続する。露岩、ガレ場には固定ロープを利用して進む。(ガイドブックには一般登山道と記載されるが、未経験者には辛いコース)	小岐須 (屏風岩) からの登山道が合流する地点 (コル) の上が崩壊が進み、1か所固定ロープがなければ通過不可。「仙鷄尾根」のプレートは数か所ある。
4	仙ヶ岳南尾根 ④ バリエーションルート (一般登山道ではない、地図に登山道として記載されていないルート、技術的に困難なルート) に近いルートとして紹介される。	仙ヶ岳の登山道で登山の醍醐味、展望が味わえる人気のルートであるが、体力、技術、経験が必要なルートである。イタハシ谷の部分は狭く深い谷の側壁を固定ロープや木の橋を利用。木の橋は老朽化して1か所崩れ落ちており、谷沿いに迂回ルート設置 (4.4)。谷上部は枯れ沢で落石に注意しながら登る。不動明王のコル (鞍部) から南尾根となる。取り付きは固定ロープ	老朽化した木の橋、固定ロープも古くすりきれているものもある。南尾根の連続する岩峰 P1～P5 は慎重に登る。ルートを探す力も必要、初心者や高齢者が下りに使用するのは事故の危険が伴う。

		<p>を利用、岩登りの基本的な三点支持（登り方）が必要。やせ尾根の中のルートで、踏み跡程度の部分もあるが赤テープが適度につけられている。</p>	
5	仙ヶ岳白谷（しらたに） ⑤	<p>南尾根との分岐に道標。石谷川の右岸、左岸と渡渉しての登山道を進む。崩壊した岸壁（側壁）にハシゴ（2本）、クサリが設置されている。大ザック（メインザック）の登山者の通行は困難である。古い木の橋があり、早急な修理が必要。御所谷出合まで右岸側、左岸側を繰り返しながら進むが、渡渉点の赤テープを見逃しやすい。大きな石積堰堤の右側を上がり河原に出る。明るい白谷の上部を赤テープに導かれて、稜線にでる。</p>	<p>ハシゴ、渡渉点（増水時）、木の橋</p>
6	葺谷（ふきたに、ガンサ谷） ⑥	<p>谷上流部は崩壊で堆積した土砂が登山道を覆う。中流部は広く炭焼き跡も点在。七ツ釜コースの表示板が残る。下流部は狭く谷が連続し、シダが登山道を覆う。周辺はシキミ業者の伐採地。腐った木の橋8か所。（特に谷上部の崩壊が進み、一般登山道としては不向き）</p>	<p>（崩壊が進み、利用する登山者は、極端に少ない。）</p>
7	御所平（ごしょたいら）	<p>県境稜線が、南西から北東方向に、ゆるやかに幅広く約1500m続いている。笹原、ススキの中のアセビが点在する。展望に優れ、仙ヶ岳と南尾根がどんどん大きくなる。</p>	<p>踏み跡程度なので、ガス、雨、雪などで方向を失う危険は大いにある。（地図、磁石、それを使用する力が必携。）</p>